

宇都宮市立錦小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、学校の宿題をしている」について、肯定的割合は98.1%で100%に近く、県より4ポイント上回っている。家で宿題に取り組むといった基本的な学習習慣が身につけていると考えられる。

●「家で、学校の授業の復習をしている」について、肯定的割合は43.4%で、県より24.6ポイント下回っている。宿題に取り組むだけでなく、授業の復習にも自主的に取り組む習慣が付くように、家庭と連携しながら家庭学習を推奨していく。

○「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある」についての肯定的割合は94.3%で、県より10.1ポイント上回っている。今後も、教材研究を行い、児童の興味・関心を高める授業を目指していきたい。

○「学級活動の時間に友達同士で話し合ってクラスのきまりなどを決めていると思う」についての肯定的割合は94.4%で、県より8.7ポイント上回っている。今後も児童一人一人の意見が尊重されるような学級の雰囲気づくりに努めていく。

●「グループなどでの話し合いに自分から進んで参加している」についての肯定的割合は75.5%で、県より2.8ポイント下回っている。授業での話し合い活動をより充実させ、どの児童も話しやすい雰囲気づくりを心掛けていきたい。

○「自分には、よいところがあると思う」についての肯定的割合は92.5%で、県より8.7ポイント上回っている。これからも児童のよさや個性を伸ばす声掛けや指導を行い、自分のよさを自覚できる児童を増やしていきたい。

●「新聞を読んでいる」についての肯定的割合は1.9%で、県より7.8ポイント下回っている。の平均が4.1%と共に低い。インターネットの広がりや家庭で新聞を読む機会が減っているためと思われる。インターネットは、利用者の興味に合わせたニュースの表示が中心となるので、バランスよく情報を得られるように、図書室にある小学生新聞などを紹介しながら、新聞を読む機会が増えるように啓発していく。

○「社会の学習は好きですか」についての肯定的割合は71.7%で、県より3.4ポイント上回っている。社会の授業等で栃木県の様子や自分たちの生活を支えている人たちについて学び、社会科の内容に興味をもって取り組んでいると考えられる。今後も、社会科の内容と自分の生活との関わりを考える機会を設け、興味・関心を高められるように指導していく。